

予測の再検討

委員会の指摘を踏まえて予測を再検討した。

工事中については、既存の地下構造物の撤去による影響、その後、本計画施設のごみピットを掘削する工事による影響として、止水矢板等の止水対策を行わず、掘削深度まで地下水を低下させた場合の水位低下量、影響範囲、揚水量を理論式により定量的に予測した。

また、供用時については、ごみピットの存在による影響として、水位変動を数値実験に基づく式により定量的に予測した。

さらに、地下水の揚水による影響として、既存井戸に関する資料等を基に定性的に予測した。

各予測項目における予測手法や予測結果の概要は表1に示すとおりである。また、詳細は、「資料1-10 評価書の整理案」に整理した。

表1 各予測項目における予測手法や予測結果の概要

No.	意見の該当No	予測項目	予測手法	予測結果	頁
1	13、19	地下構造物の撤去工事による地下水位の変化	【水位低下量、地下水影響圏範囲】 ・ Sichart(ジハルト)式 【揚水量】 ・ Forchheimer(フォルヒハイマー)式	【水位低下量】 ・ 3.8m 【地下水影響圏範囲】 ・ 75.6m (既存井戸1箇所あり) 【揚水量】 ・ 2,725.1m ³ /日	1.4-236～240
2	19	ごみピットの掘削工事による地下水位の変化	【水位低下量、地下水影響圏範囲】 ・ Sichart(ジハルト)式 【揚水量】 ・ Forchheimer(フォルヒハイマー)式	【水位低下量】 ・ 4.5m 【地下水影響圏範囲】 ・ 89.5m (既存井戸なし) 【揚水量】 ・ 557.1m ³ /日	1.4-241～244
3	11	ごみピットの存在による地下水の流れ及び地下水位の変化	【水位変動量】 ・ 平面二次元場での推定式	【水位変動量】 ・ 0.11m	1.4-245～248
4	18	地下水の揚水による地下水位の変化	【地下水位の低下に伴う影響】 ・ 既存施設及び本計画施設における地下水の取水量、取水深度、帯水層から定性的に予測	【地下水位の低下に伴う影響】 ・ 計画施設における地下水の取水は、同じ被圧帯水層となるように計画している。 ・ 現状で、井戸枯渇や地盤沈下等の実害も報告されていないことから、地下水位の低下に伴う影響は小さいと予測する。	1.4-249～251

注) 頁番号は、「資料1-10 評価書の整理案」の頁を示す。